

平成29年度第2回移動市長室会議録

(平成29年5月26日)

1 日 時：平成29年5月26日（金曜日） 13時30分～15時35分

2 場 所：JA筑紫資材配送センター

3 出席者：

『JA筑紫 ブロッコリー部会』

砥綿部会長、ブロッコリー部会員（4人）

『JA筑紫 アスパラガス部会』

結城部会長、神崎副部会長、アスパラガス部会員（6人）

JA筑紫（3人）

『筑紫野市』

藤田市長、長野環境経済部長、中村農政課長、杉村秘書広報課長、
佐藤農政課課長補佐、森田秘書広報課係長、山崎秘書広報課係長、
末吉秘書広報課主査、田頭農政課主任

4 内 容：懇談

○（事務局） ただいまから、平成29年度第2回、通算69回目の移動市長室を始めさせていただきます。このたびは、ブロッコリー、アスパラガス両部会の現在までの活動について御報告をいただきまして、質疑・意見交換を踏まえながら、農業収入の増加に向けてをテーマに懇談をしてまいりたいと考えております。本日の懇談は、お手元の次第のとおり進めさせていただきます。なお、本日の懇談内容は、会議録を作成し公表させていただきます。撮影しました写真や動画は、市のホームページ、広報紙に掲載させていただきますので、御了承ください。

それでは、初めに、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。筑紫野市長の藤田陽三でございます。ブロッコリー部会並びにアスパラガス部会の皆さん方には、各部長をはじめ、日ごろから筑紫野市の農業の発展のために御尽力、また、御協力を賜っておりますことを心から厚く御礼を申し上げます。今日は、アスパラガス部会の方からは、きれいな花を飾っていただきまして、ありがとうございます。やっぱり和みますね。ありがとうございました。

本日は、本年度第2回目、通算しますと第69回の移動市長室となりましたが、現在の農業を取り巻く状況は、農業従事者の高齢化や遊休農地の拡大など課題が山積しておりますが、農業が担っている食の安全と国民の健康は欠かすことのできないものであり、次世代へ繋いでいくことが重要な責務でもと考えております。本市としましては、農業者それぞれの経営実態を踏まえ、JA筑紫をはじめとした関係機関と連携をし、今ある農業振興支援策を有効に活用することで、農業者の所得向上、意欲向上に資する取り組みを進めてまいりたいと考えております。

本日は、皆様の活動内容、日ごろの思いをしっかりとお聞きしながら懇談をさせていただき、これからの市政に活かしてまいりたいと考えておりますので、最後までよろしくお願ひ申し上げます。以上で、御挨拶を終わるわけですが、どうぞ限られた時間ではありますが、皆さん方の貴重な体験を聞かせていただくことに大変期待をしておりますので、いろいろなことを教えてください。よろしくお願ひいたします。

○（事務局） ありがとうございました。続きまして、団体代表の御挨拶に入ります。まず、ブロッコリー部会の砥綿和廣部長、お願ひいたします。

○（砥綿ブロッコリー部会長） ブロッコリー部会長の砥綿和廣です。本日は、当部会の取り組み、あるいは現状についてお伝えできる機会を設けていただきましてありがとうございます。また、野菜振興対策事業費補助金、あるいは水田調整対策補助金等、日ごろから

御支援をいただきまして、さらには、広報紙に掲載をしていただきまして、市民の方にPRしていただきまして、ありがとうございました。

当部会は、さまざまな問題を抱えておりますが、40年にならんとする伝統を絶やさないよう、あるいは、糸島、粕屋といった他産地に負けないよう、会員一同、生産に励んでおります。本日は、ブロッコリーについての御理解を得られますよう努めたいと思います。よろしく申し上げます。

- （事務局） ありがとうございます。続きまして、アスパラガス部会の結城裕子部会長、お願いいたします。
- （結城アスパラガス部会長） こんにちは。アスパラガス部会長の結城裕子です。アスパラガス部会としては17年目に入ったところでございます。学校給食のほうでもJA筑紫のアスパラガスを使っていただいて、ありがとうございます。新規就農者がだんだん増えて、部会としては若手が増えてきている段階です。面積のほうも来年度にはもうちょっと増えるような状態です。以上です。
- （事務局） それでは、ここで自己紹介に入らせていただきます。自己紹介につきましては、まず市役所のほうへ行きまして、ブロッコリー、アスパラガス部会という形で行きたいと思います。私は、本日の司会を務めます秘書広報課秘書担当係長の森田です。よろしく申し上げます。
- （長野環境経済部長） こんにちは。この4月から農政課を担当しております環境経済部長を仰せつかっております長野健一です。どうぞよろしく申し上げます。
- （農政課） 農政課長の中村です。
- （事務局） 事務局をしております秘書広報課長の杉村です。
- （事務局） 秘書広報課広報広聴担当係長の山崎です。
- （事務局） 秘書広報課広報広聴担当の末吉です。
- （農政課） 農政課課長補佐の佐藤です。
- （農政課） 農政課農政担当で、現在、園芸を担当させてもらっています田頭です。
- （砥綿ブロッコリー部会長） 私、山家に生まれてから六十数年住んでおります。ブロッコリーが両親と私と3人で始めまして27年になります。私は、ずっと福岡のほうで仕事を30年くらいやらせてもらって、両親がリタイヤして、私がリタイヤ後にブロッコリーを本格的に始めました。だからもう7年になりますけど、いろいろ難しいものがあって、大変悩んでいます。よろしく申し上げます。

○（ブロッコリー部会員） 常松に住んでおります天原邦明です。私も、この部会、38年、歴代38回ということで今度総会をしたわけですが、その当初からブロッコリー部会に出まして、その前、部会を発足する前は、4、5年、同志会という形でしていたわけですが、なかなか部会員が揃ってきて、農協でこういう会をつくろうということで、それからつくって38年になります。

それで、その中でやっぱり一番いいときは1億に近い金額までなっていたときがあります。農協で1億円達成の、あとちょっと足らなかったけど、記念式典をしようというようなことまでをしたわけですが、その後、なかなか部会員も年をとって、部会員が入れかわったりして、もう大分昔と、今いるのは私と2人、3人ぐらいしかおりませんが、また、新しい人がどんどん入ってこられて、その中で学校給食にもある時期から、学校給食に使ってくれということですが、筑紫野市はセンター方式だから、1回の学校給食に使われれば、三百何十キロぐらいいるのですよ。それを核として出せるから、非常にシルバーさんの人件費等もあるから、やっぱり高い値段というか、ある程度の値で買っていて、1年に1回か2回ぐらい食べさせていただいているわけです。

そういう子どもたちに食べさせて、消費拡大をしようということと、テレビで、やはりピロリ菌とかがんに効くとかいうような宣伝が出てから、非常に消費が増えて、最初はカリフラワーが主体でブロッコリーって言ったときに市場に持っていても売れないような状況で、昔は。それで、最初のころはずっと十何カ所か市場回りをしていました。今、福岡大同青果と久留米青果だけになっていますけど、当時みんなそんなふうにしておりました。

それでやっぱり、きついときもあったけど、そういういろんなテレビだの、いろんな効果で種類が増えてきて、今、ブロッコリーは弁当に1つ入れないといけないというような形になっていますけど、やはり大事なことです。我々もなるだけ安全なものを食べさせようということで、消毒は玉ができる前か、できた後のちょっとしか、大きくなったらなるだけ消毒しないということで話してつくっているということです。

なかなか、今、若手が出ていますけど、退職したり、途中で仕事をやめて、ブロッコリーをつくろうという方たちが、いい時期に当たったら、非常に、今年も去年も正月前も非常に高かったのですが、そういう時期に出荷して当たった、1つやはり見本を、また面積を増やしていくというような形で少しずつ取れてきますので、若い人たちに夢が与えられるような、私たちもできる限り、体が弱ってきて昔ほどばりばりできないけど、知恵など出して、していこうかなと思っております。

○（ブロッコリー部会員） 古賀に住んでいます佐伯繁久です。年は、ちょっと取っているのですが、ブロッコリー部会に入ってから4年ぐらいになります。野菜づくりは、まだ素人なのですが、JAさんのほうの勧めもありまして、このブロッコリー部会に入ってから、皆さんと会員の方たちと一緒にブロッコリーをつくって、自分で食べて、おいしいなと思っております。やはりブロッコリーをつくり始めて、その前まではあまりスーパーとかで見なかったのですが、何かこう、見る目が肥えて、もうスーパーに出ているのよりかは、絶対我々のほうが良いと思って、だから、今度、本当、1つ持ってきたら、間違いなく新鮮でおいしいブロッコリーだと思いますので、皆様方もどんどん食べてください。

○（ブロッコリー部会員） 皆さん、こんにちは。筑紫野市隈で農業をしております田中修一です。米と麦と大豆をつくっているのですが、コストがかかる作物ばかりなので、ブロッコリーをつくってみませんかという講習会に参加したときに、包丁とかごがあれば収穫できるということを知ったもので、これはやっぱり、あんまり金を持たない自分もってこいだなと思って、ブロッコリー部会に入れさせてもらいました。

近くで先輩がアスパラもつくってあるのですが、おまえアスパラしないかって、かなり誘われたのですが、ハウスを建てるところがないから、やっぱり俺はもうブロッコリーでいくっていうので、ブロッコリーにちょっとかけてみました。

つくり始めて3年目になるのですが、それまでブロッコリー自体、全然、食べてなかったのですが、何かおいしいなっていうのが、この年になって感じてきました。年のせいかもしれないけどですね。とにかくブロッコリーでちょっと頑張ってみようと思って、先輩方にいろいろ指導してもらいながら頑張っています。皆さんよろしくお願ひします。

○（結城アスパラガス部会長） 結城です。最初のブロッコリー部会からの出身でやっております。

○（神崎アスパラガス副部会長） こんにちは。山家の神崎です。アスパラガス部会の副部会長をさせていただいておりますが、私自身は勤めが長く勤めておりまして、現職退職後に、野菜を専門でやっていた関係から野菜をしようという、本来はニワトリをしたいと思うことが一時期あったのですが、そういったことで、その中でもブロッコリーあたりというのは後でお話に出ていますが、先輩方がちょうど、特にうちの組織は今日お見えの結城さんや八尋さん、この2人、女性陣が頑張られておる組織の中に入れていただいて、現在、面積もちょっと広くて、雇用体系においてやるということでもさせていただいておりますので、いろいろと迷惑をかけていることもございますが、よろしくお願ひいたします。

○（アスパラガス部会員） 八尋です。アスパラを始めまして、18年か17年、パートタイマーのつもりで始めたのですが、ブロッコリーも30年ぐらい前に8年ほど入ってまして、そこで、ブロッコリー、基本づくりというか、部会の、それを何か習ったみたいで、アスパラ部会に、自分がそれが生かせるような気がしています。

それで今のところ、若い人たちを育成にというか、神崎さんとか頑張ってくださいますので、そういう人たちの指導まではいかないけど、教えることとか知っていることは全て教えてあげたいなと思って、今は頑張っています。今は、主人が退職しましたので、一緒にやっております。パートではないのですが、その時期から始めて、今、頑張っております。よろしくお願いします。

○（アスパラガス部会員） 山家の長谷尾です。私もアスパラ部会に入りまして9年目になりましたけど、山の上で採れるかなということだったのですが、なかなか未だに収穫量が増えきらなくて、一応、2トン半の目標を掲げておりますけど、なかなか達成しなくて未だに頑張っているところでございます。またよろしくお願いします。

○（アスパラガス部会員） こんにちは。柏木です。僕は太宰府市に住んでいて、通いで筑紫野市のほうでハウスを買って、アスパラをつくり始めて、まるっと4年経ちました。で、やってみて、やっぱりうまくいかなくて収量がなかなか増えないというところで、収量アップが目下の目標なのですが、やっぱり部会の先輩方々に聞いて、日々努力をしている最中です。若い人も入ってきているので、若い人たちと一緒に、これから部会にも貢献してみようかなと思っています。よろしくお願いします。

○（アスパラガス部会員） こんにちは。今村です。僕は、筑紫野市萩原のほうで、今年で2年目で、ちょっとまだ言えることがちょっとないのですが、先輩たちに教えてもらいながら、今後負けずに頑張っていきたいと考えています。

○（事務局） 本日は、両部会の他にJAさんからもお見えです。お願いいたします。

○（JA筑紫） こんにちは。JA筑紫農業振興課の小金丸です。本日は、このような場を設けていただきまして、ありがとうございます。本日はよろしくお願いします。

○（JA筑紫） 同じく農業振興課の古屋です。よろしくお願いします。私はブロッコリー部会とアスパラ部会を園芸で担当しております、私よりベテランの方々ばかりでして、私がいつも勉強をさせてもらいながら担当させていただいております。本日はよろしくお願いします。

○（JA筑紫） JA筑紫企画課で広報担当の藤澤です。どうぞよろしくお願いします。

○（事務局） それでは、活動報告をお願いしたいと思います。それではまず、砥綿部会長、よろしいでしょうか。

○（砥綿ブロッコリー部会長） それでは、御説明を、天原さんのほうからも少しお話があったように、設立が昭和54年です。1979年、それから計算したら39年ということで、最初の経緯はどういう内容で設立されたか、ちょっと私のほうも存じ上げませんので、一応、バラバラだった人たちをまとめるという、技術の向上とかそういったものを図るために設立されたと思います。

部会員は現在23名、1人は小郡市のほうからお見えになっております。

面積は、だんだん少なくなっておりまして、平成28年、これ一番悪い年だったのですが、いろいろ気象的に障害が、生産が減ったりもしております。また、今年からは生産も上げていきたいと思っております。

売り上げも2000万円近くあったものが、今、1200万円ぐらいで、出荷先は大体、福岡大同青果、久留米青果が主体です。朝倉青果も一部あります。

部会の役員は私、部会長で、2期目で3年になります。副部会長は、今日は欠席しております、山内さん。会計、米倉さん、地区役員は3人、先ほどの天原さん、それから大石さん、それからJAアグリサポート筑紫のほうから1名、職員の方がお見えになっていらっしゃいます。

一覧ですが、左に出荷番号というのがあります。私は、ちなみに38番、背番号を背負っています。皆さん、背番号が23名分ですね。一番下の部会員については、まだ出荷の実績はありません。今年から生産されると思います。

ブロッコリーの栽培の流れですけれども、まず、播種、種まきです。種まきをどのようにするかといたら、トレーが30センチ掛け60センチ、これに72本から128本、種まきをすることができます。72本でしたら、ものすごくトレーの数が多くなりますので、ほとんど128、30掛け60センチの中に128粒の種をまきます。播種時期は早いもので、7月の大体20日前後です。で、この時期が基本的に30日です。冬場につくるのにつきましては、これはあくまで20度から25度、温度を保った状態でやれば40日。あんまりこれは、30日たったら、早目、早目に植えていくということで、日が経つにしたがって苗が傷んでいきます。

次、定植です。これ大体30日後です。この定植と種まきの間に田んぼの準備があります。堆肥とかの有機、あるいは、化成肥料ですね。これをまず入れて、それから、ブロッ

コリーが湿田を嫌う、湿っているところを嫌いますので、畝を立てます。幅が、溝間が150センチぐらい、間隔にして30センチ前後で埋めていきます。一反、300坪ですけど、大体3000から4000本という植えつけになります。

管理作業につきましては、もうブロッコリーはいろいろ障害が多いです。例えば、まず雑草、それから虫ですね。それから病気、もちろん天候もあります。定植後、2週間後にはもう追肥をやらなくてはなりません。それから、さらに2週間後、4週間目ですね。また追肥です。かなり肥料をやっていきます。

そのほか病虫害防除です。これも、青虫、ヨトウ、コナガといった虫に対して、2回、3回という消毒をいたします。それから病気に対してもそうです。べと病とか、そういうのに対しても消毒をしなければ収穫が見込めません。

そういう作業をして、収穫が一番早いもので7月の20日に種をまいて、8月のお盆過ぎぐらいに植えたものが10月の中旬ごろから収穫が始まります。

実は、うちで朝、今日取ってきたのですが、そこに葉っぱつきで1本だけあります。よろしければ、後でご覧になってください。

活動ですけれども、1年間でああいう活動を行っています。主なものが総会、作付検討会というのは、みんなの計画、今年はどういうふうにな何をまいて、作付量をどのようにするか。あとは役員会、それから育苗現地検討会というのが、部会員が集まって、みんなの苗の生育状況を見て回ります。そういうときに苗のつくりかた、そういう知識もよそから盗んでいく、そういうことで、みんなで回っております。

あと、定例会、皆さんがやっているのは、その年のサイズ、それから、どういう状況だったか、要するに返品数や取り上げ高、そういうことの、もう一遍確認事項をやります。

11月になりますと、JAさんのふるさとまつりに出品といいますか、大体、てんぷらを揚げて、皆さんに召し上がっていただきます。それから、大体200本前後は、お安く販売をいたしております。

市場視察は12月と1月、これは福岡大同青果と久留米青果、交互に年を入れかえて、朝の6時ごろ出発して、競りを見て、よその部会の物をしっかり見て、いろいろと検討をしております。それから、その後は、市場の関係者も交えて意見交換をしております。

昨年度、ちょっと1回、初めて各産地が集まって、作付の研修会をやりました。私は所用で参加できませんでしたが、初めてのことで、また次回、続くといいなというふうに思いがあります。大体そういう活動を行っております。

ちょっと見にくいのですが、左側にずらっと品種がありますが、品種が短い、播種い
わゆる、種まきから収穫まで85日タイプから、一番長いので200日タイプまで、もう
いろいろあるのです。ただ、真ん中の緑のところをご覧になったら、ずらっとう斜めにな
っています。10月の中旬から収穫を開始して、6月の中旬ぐらいまで収穫できます。
ブロッコリーは1品種を1回、2回というような収穫はいたしません。10月の中旬から
ずっと切れ目がないようにつくっていくというのが、これはもう理想です。6月に1回目、
あれちょうどつながるのです。緑の帯のところですね。ああやってずっと遅い品種がずら
っと遅く収穫ができるという。

ただ、ちょっと見にくいですが、品種の緑色の間をご覧になったらわかりますけど、青
いところが9月に固まっています。これ、植えつけの時期なのです。この植えつけにはど
うしても9月から10月の頭ぐらいしか日にちがあまりないのです。で、どこが厳しいか
と言ったら、9月が秋霖の時期に向かいます。秋霖の時期です。だからどうしてもあそこ
が植えつけが、ちょっとできない時期がたくさんある。だからもう遅くなったりするので、
ちょっと厳しいなと思います。

それから、今度は上の右側です。緑色のがありますけど、あれは、今度は逆に冬に種を
まいて、2月の下旬から植えつけが始まって、今日お持ちした、今、収穫するタイプが右
側の上のほうです。だから、種類によっては年2回つくれるというタイプもあります。

育苗現地検討会、これは先ほど御説明した分になりますが、各農家、私たち部会員が苗
を見ながら批評をしている様子です。

市場視察については、先ほども御説明いたしましたけども、1つ市場のほうで、例えば
ゆめ畑とか道の駅とか直接販売する、そういうのがかなり多くなって、結局、市場に入っ
てくるものは2割方くらい少なくなったというような話をしておられます。

市場視察、朝早く競りが始まる前に行って、競りを見せていただきました。ちょっと御
祝儀相場といますか、少し高い値でとっていただくようになりました。ほかの産地も来
ておりますので、しっかり見てきます。

問題点というのは、いろいろあるのですが、私にしてから、もう67歳で、あと
10年作付ができるかなという不安もあります。できるだけ若い方々も入っているのです
けど、なかなか入会がありません。年に1人、2人ということですけども、もう少しあと
10年、もうやめる日までには若い方々の世代に引き継いでもらいたいという気持ちがあ
ります。

新規の方は大体、農業塾で学ばれた方にお声かけをするか、あるいは、何人もおられますけども、いわゆる仕事をやめてリタイヤ後に農業に入られるという方もおられますので、そういう方へも積極的にブロッコリーの栽培をしませんかという声かけをしております。

異常気象による作付不良、先ほども申しましたとおり、例えば、先ほどの植えつけ時期の秋霖です、あれも1つの大きな問題。それから、台風ですね。9月に植えつけたら、当然、台風が来ることになります。そしたら、台風対策。それから、異常気象といえば暖冬。暖冬になれば、前倒しで収穫が早くなってくる。だから、せっかくなつくった計画がもうずたずたになってしまう。

改善点としては、品種が、先ほどご覧になっていただいたとおりたくさんあるのです。もうメーカーも何社もあります。で、暑い時期に強いもの、それから寒い時期にとかいろいろあるので、いろいろ作付してできのいいものを選んで、品種を選んで、それから、今まではそのまま何もしなかった。例えば、2度から3度で24時間冷蔵した後で箱詰めして出荷するという形をとっておりましたけど、暑い時期はそれでも、市場のほうから氷詰めしていただけないかということで、氷詰めで出荷します。氷詰めといえば、発泡スチロールですけど、これはもう折り畳みができないから、もう、ものすごい大きな倉庫でないと確保できませんから、ダンボール会社の方に相談いたしまして、ダンボールでできるように、氷を詰めて、ダンボールでできるようにして出荷をしています。

最後に3番目です。他産地、やっぱり昔、本当私が入ったころには、粕屋、糸島、筑紫、大体3地区はあんまり、そう差がなかったのです。糸島がちょっと強いかなくらい。で、今、もう断然差がつかまりましたけど、筑紫はもう大分小さくなってしまったのですけど、あと、ほかの産地もまた出てきました。例えば、嘉穂、宗像、そのほか朝倉のほうもつくってあるのですけど、ほかの例えば、長崎とかそういったところも、産地間競争がちょっと厳しくなっておりますので、筑紫ブロッコリーも負けずにもう少し収穫を上げていきたいと思っています。一応、目標としては、元に帰るつもりで、17ヘクタール、86トン、大体、前はこれだけ上がっていたのですけど、何とか戻すつもりで頑張りたいと思います。

昔は、3町とか2町とか大規模な大型の農家が6軒、7軒とおられたのですけど、もう全部やめられました。多いところでも1町5反、そのくらいの規模です。できたとしても、皆さん方に最低でも1町、多ければ2町、私は、やめるまでに3町まで持っていきたいなという気持ちはあるのですけども、体が続くかどうかわからないのですけどね。

最後に、ちょっと田んぼのことなのですが、定植期が9月ですよ。9月に固まって

いるということは、稲の裏はちょっと厳しいのです。稲の裏でつくるっていうのはものすごく難しい。夢つくしという9月の頭で収穫できるものは、そしたらだだだっと準備して植えつけは可能なのですが、ちょっと厳しいです。だから、どうしても空いた田んぼをとか、それとか減反した田んぼにつくらざるをえない。今度は減反、自分で減反して、その減反につくったら、周りが稲作、あるいは麦をつくったら、水がしみ込むのです。これちょっと水対策もあるのです。それで今度は防除、ヘリ防除とか周りでされたら、ちょっと収穫が一時できない。だから、減反でつくと、ちょっといろいろ厳しい面もあると思うのですが、1つ、でも私が農業委員を今しております、耕作放棄地の解消問題があります。私が2カ所は稲作、稲をつくっていたのですが、イノシシに3回ぐらい入られている、3年。もうそこは稲をやめて、ブロッコリーをすぐやっていたのですが、イノシシ、それから、シカ、荒らしません。ブロッコリーは全然。ただどっかに行くのに通過して行く。足跡が残っているので。でも荒らさないのですね。だから、そういったところは山の上のほうにもつくれる。そういうのを活用していったらいいと思います。

あれがブロッコリー、今日持ってきましたが、高いもので背丈が、もう肩ぐらいまで葉が伸びる。葉にしっかりと囲まれて、今日の朝露の時期に取ってきたものです。

話は最後にしますが、母が84歳になります。今日も来なくていいから、私一人でやるからというのに来るんです、収穫に。もう、かごを下げて、何でかという、ブロッコリーを切るのが楽しくてしょうがない、で、やるんです。また、孫のことなのですが、ブロッコリーが最後になって、もう明日からブロッコリーないよって言ったら、泣き始めたんです。1日3本、娘が湯がいて毎日食べているんです。それだけ好きなんです。私も好きです。収穫も好きです。だから、これからもずっとやめないでつくれる間はつくっていききたい。以上で、活動の報告を終わります。

○（事務局） ありがとうございます。感想は後ほど述べさせていただきたいということで、それでは、続きまして、アスパラガス部会ですけれども、神崎副会長からよろしいでしょうか。

○（神崎アスパラガス副会長） 私、神崎のほうからアスパラガス部会の活動内容につきまして説明させていただきます。活動につきましては、ブロッコリー部会さんもそうですが、先ほど申し上げましたように、助成金等含めまして、いろいろと支援をしていただきましてありがとうございます。おかげでいろいろな面で助かっておりますし、そういった中で今後活用させていただきたいと思っております。

まず部会の概要を簡単に申し上げます。平成11年となっておりますが、現実づくり始めたのが、その前の年からになりますですから、長くやっておりますが、当初は小さな面積から始められる方が結構多くて、現在でもまだ頑張っております。特に、女性の方ですね。今日、お見えの2人が中心になられて、部会の部会長、副会長を含めて、ずっと頑張ってきてこられた関係で、今に至っておるというのが現状であります。

部会自体はブロッコリー部会と考え方は一緒ですし、基本的に生産技術の向上ということ、あえて農家の所得向上につなげるということが目標、そして、お互いの融和も図ってということで、部会がすごく役立っている。そういった中で、現在15名になります。これまでの間には、やめていかれた方もおられます。また、新規に入られてきて、ちょっと、先、1回進んでもらえますか。そこの下のほうに名簿が載っていると思うのですが、実は、現在、一番始め平成10年からつくられた方々が4名おられます。あとの下のほうに載っているメンバーは、私をのけた、牟田さん、ここから先が、ちょうど7年前から始められて、現在に至っております。

また、先ほど部会長のほうからも申し上げましたように、来年、30年度に補助事業の導入を予定して、今進んでおりますので、また2名ほど新規に増える予定です。そういったことで年々増えておりますが、県内の中では、アスパラガスは約70ヘクタールほどあります。そのうちのごく一部です、うちの産地としては。小さな産地なのですが、お互いいろいろな形で頑張っていこうということで、今活動をいろんな形でやっております。

特にアスパラガスは、原産地がヨーロッパの地中海のイタリアあたりと言われております。ですから、乾燥地帯の作物なのです。ですから、水を多くやると非常によく芽が出るというような作物です。そして、例えば大雨とかいろんな形で1日、2日浸かっても、現在出ている芽は、そのとき出ている芽は痛みますが、その後は余計にもものが出てくるというような、非常におもしろい作物というか、非常に雨といいますか、冠水含めて、結構強いという、絶対とは申しませんが、ただ、ずっと水に浸かっていると、最終的には枯れますので、そういったところは普通の作物で、あくまでも畑作物でございます。

そういった中で、そして永年作物なのです。ですから1回植えますと、昔は10年ほどしか持てないとか、数年で植え替えないといけないと言われておりましたが、現在、今、ここにお二人おられます女性の方のところでは、18年、19年となっておりますので、恐らく30年近くはこのまま1株植えたやつが使えるというふうに思っております。

ただ、先ほど水に強いとは申しましたが、実は、雨に弱いのです。そして、雨が多いっ

てこととなりますと、病気が出やすく株が枯れてしまう病気があります。茎枯病という病気なのですが、そのためにハウスが必要、雨よけをしなくちゃいけない。北海道あたりは露地でつくっています。長野県も露地でつくっています。何百とつくってあります。ですが、西南端地の特に九州含めては、あくまでハウスというのが現状です。ですから、初期投資が非常にかかるということで、なかなか取り組む方が少ないのは現状です。

ただ、県内は現在でも、まだ少しずつ伸びております。やめられる方以上に新しくされる方が多いというのが現状です。それから、先進産地の長崎とか佐賀は、逆にやめられる方のほうが多くて、少し衰退気味、衰退とは申しませんか、若干減る方向で現在進んでおるような状況です。そういった中での小さい組織ではございますが、今、やっております内容を、今からもう少しお話をしていきたいと思っております。

これは、役員体制です。先ほど御挨拶するときさせていただきましたので、おわかりだと思いますので、先に進ませていただきます。

名簿も先ほどのとおりですので、現在つくられている中では、那珂川町が3名、筑紫野市が11名、そして、太宰府市の方が1名、そういった形でやっております。

これが、アスパラの植わっておる状況なのですが、これは、実は、苗は自分で育ててもいいですが、日数がかかります。大体5、60日、約2カ月ぐらいかかりますし、その管理たるや大変なことになりますので、今、ほとんど購入苗を使っております。ただ、自分でできる方も一部おられます。そういった方の中で、苗をつくり、そして苗を購入して、植えつけをいたしますが、苗は先ほど、ブロッコリーの方で申し上げたような苗も一緒です。背丈が大体30センチくらいのひょろひょろの苗を植えるような状況です。植えつけはいつでもできます。が、冬の寒さに弱くて枯れますので、春に植えたほうが栽培がしやすいということで、現在は大体3月に植えつけをしております。

定植後、これは成功した状況です。1年目には、ほとんど収益が上がらない、収量が取れない。若干取れますので、農薬代とか肥料代とかその辺が賄えるかなぐらいの収量ですね。非常に投資した割にすぐ取れないというのが、非常にネックにはなっております。

そういったことで、今、現状のこれが育って1年目のまだ時間の余り経っていない状況です。これが、2年目の春芽になります。実は、アスパラガスは2月から9月いっぱい、ないしは10月の上旬まで収穫がされます。ただ、その中を春芽と夏芽という2つに分けておりまして、分ける理由は、左側の写真のように、何もない状態の中に株が植わっておりますので、タケノコみたいにぼこぼこ出てくるというような作物です。そして、なぜそ

ういうふうに出てくるかといいますと、根に養分をため込みます。そのため込んだ力でもって出てくる。そして、養分を使い果たす前に木をつくって、また木に光合成をさせ、養分をつくらせて、根にもため込むし、若い茎に栄養をやって、新しい芽をどんどん出させる。それをまた収穫していく。そういったやり方で、ちょうど今現在、この5月、6月ごろが、一番収量が落ち込んでいる時期にはなります。そういったことですが、もう6月の中旬には相当量、また出始めまして、9月いっぱいには確実にみんな頑張って取っていかなくてはならないと思っております。

そういったことで、立茎と書いていますが、これはもう茎を立てることで。ちょっとアスパラは専門語がいろいろ多ございまして、わかりづらいところがあるかと思えます。葉っぱも、実は、葉と言わずに偽葉と言って、葉に似せたやつ、偽の葉、そういった書き方もします。ですから、非常にそういう専門的な作物ですが、国内に入ってきたのが大体、江戸時代ごろと言われておりますし、当初は食べ物じゃなくて、今、市長さんの前にありますが、アスパラガスの若いやつもございまして。それは色がついているのは紫色です。

アスパラというのは、当初は白を多く食べていた、ホワイトアスパラです。養分的には、やっぱり緑のほうがあると思えます。緑色より紫のほうが養分は多いと言われております。ですが、紫は湯がきますと緑色になります。そういうことで、なかなかいろいろありまして、実際つくられる紫色というのは、見た目がちょっと食べ物として嫌われるとは申しませんが、敬遠されがちと思えます。ですから、現在グリーンアスパラ、緑色のみを生産をしております。ホワイトアスパラは、あんまり光を当てなければ白になりますので、そういった栽培方法ですれば、我々だって春先ぐらいにはできるということもございまして。北海道とかああいうところで、よくやられているところです。

次、これは、アスパラの茎を立てている状況なのですが、左側の図は、これが今から先、今現在、茎を立てておりますので、上に木が繁ります。そうした中で下のほうから、また、新しい芽がどんどん出てくる。これをどんどん取っていきます。そうしますと、春の収穫量の大体、倍になります。これらを取りますと、大体、自分たちの目標とする収量も上がっていく予定なのですが、なかなかそこまで、先輩方はまだ先を目指してございまして、始めて間もない人間、我々は、今、それに向かって進んでおるところです。

それから、右のほうの写真は、枯れ上がっておりますが、実は、冬の寒さに当たりますと、普通は山とかは紅葉といいます、ないしは黄葉って呼んであります。アスパラガスは黄色く枯れます。こういうちゃんと黄色く枯れさせることで、低温に当てます。そして

眠らせる。眠らせて、急激に温めてやると、目が覚めて、新たに芽がまた出てくるっていうような繰り返しをやっているようなことです。ですから、この黄葉の時期の写真ですので、参考までに御紹介をしておきます。

活動内容ですが、ブロッコリー部会のと一緒の内容がほとんどですが、我々は、まだ部会も若こうございまして、そういった中でとにかく現場研修、現地研修ということで、部会員全員で全圃場を回る。そういったことを主体にしながら、他産地の調査に行ったり、市場に行ったり、それから、時期的に肥料を入れる時期には、泥の状況を測る。測定しながら肥料の手順を決めるとか、いろんな形でもって、的確に皆さんしていただくように進めるようにということで、現在進んでおります。

今後、販促活動を、今、始めたところでして、ゆめ畑を中心に、現状はまず農協管内です。ですから、ゆめ畑4店舗、ないしはゆめタウンを中心に、まず販売促進活動を進めながら、将来的には福岡市場にも出しておりますし、買い手さんのほうに出向いてでも、新たにそういったことも含めて、アスパラガス全体のそういった認知にもなりますが、ぜひともやっていきたいというふうに思っております。

そういったことで、法被をつくろうとかのぼりをつくろうとかいろんな、今までやっておりませんでしたので、改めて取り組んでおる状況です。

これは、出荷目合わせ会、先ほど、ブロッコリーさんのほうで説明されました内容と一緒に。要は、アスパラガスにつきましては、農家各戸が収穫しましたやつを、長さ大体25から27センチで集荷場に持ってまいります。収穫時は27センチが基準としておりますが、実際は30センチほどあつたりしますので、長すぎる分を全部切り落としてもらう。それが農家の仕事になっています。そして、いいやつと悪いやつ、そういうことでA、B、Cに分けていく。そしてA品、ないしはB品を集荷場へ持ってきてください。実は、アスパラガスは集荷時間が9時半までになっております。朝取ったやつが間に合いませんので、消費者には申しわけない言い方なのですが、一晩寝かせるという形になります。

それで、アスパラは一日に大体、長さが、条件のいい25度から30度弱、この辺になりますと、大体10センチから15センチ、1日で伸びます。ですから、朝夕収穫が基本です。少ない時期は1回取りも当然ございまして、現状は量が少ない方などは1回取りされている場合もございまして。そういったことで、基本、3月、4月それから、7、8、9月、この辺は、朝夕。ですから、明るくなったら取るというような方もおられますし、時間を決めながらやられている方もおられるというのが現状です。

そして、集荷場に持ち込んで、再度また切り直す。25センチが基準ですので、集荷場でもって、切り、長さを揃える、あとは規格ごとに100グラム束に結束します。それを、5キロ単位にして市場のほうへ出荷をするというやり方です。

それから、販売につきましては、これは目合わせ会で、その農家さんが選ぶのをどういうふうにして持ってきてくださってという話し合いの場ですね。それから現物を見ながら決めていく。これはもうブロッコリーさんと一緒です。

次です。これは、実はアスパラガス部会は県域の大会が2年おきにあります。その中で、実は県南部と県北部に地域分けをいたしております、福岡県内をですね。なぜかといいますと、地域性の違い、土壌条件の違い、気象条件の違い、そういうことで地域性が違うということで、県南部と県北部に分かれておまして、うちのアスパラガス部会につきましては、小さな組織ですから余計もらいやすかったのもあるやもしれませんが、実はそこにお手元にも書いてあるかと思いますが、総収量の伸び率ということで最優秀部会ということで賞をいただいております。これは結城さんが写真に写られております。それから、他にも個人的に伸び率とか、いろんな形でお二人ほど賞をいただいております。そういったことで、小さな部会とは言いながら県北部においては、県北部も一番県南に近い部分でございますので、いろいろあるかとは思いますが、非常に皆さん頑張ってやっておられるというのが現状です。

それから、課題と改善ですが、これにつきましては、アスパラガス部会の収穫量は、大体、1、2割が処分をしておるとというのが現状です、自分のところで、あとを出荷する。ですから、8、9割方出荷に堪えておるといような状況はあるかと思いますが。ただ先ほど言いましたように、A品が一番品物的にはいい、B品が次、そしてC品、それまでですが、そういう形です。そういう中でB品がどうあるか、C品がどうあるかってことなのですが、実は食べるのに支障は全くないのです。ただ調理をすとかいろいろな形になりますと、曲がっておったり、穂先がこう極端に曲がったりで、調理がしにくい。家庭ですと問題は少ないと思うのですが、料理人さんが扱うのでは非常に扱いづらいし、飾るのにも見た目がありますので、A品、B品というのは、大体、主体的に真っすぐになってないとだめだというのが基本ですし、あとは傷とかです。いろんなことがあっちゃいけないという状況です。ですが、現実見ると、そういったものがいろいろありますので、それをお互い、集荷場ないしは自前で分けながら、集荷場で、また悪いやつははねながら、市場出しと、それから、自分ではねた分は直売所へ出す。そういったことで、今対応しますし、

先ほど部会長が申しました学校給食へ多く使っていただいています。年に数回、3、4回ぐらい使ってあると思います。筑紫野市さんもしていただいておりますし、最近、那珂川町さんも一部やられていますし、春日市さん、それから、いろいろなところで使っていただけるような方向に、今、現状進んでおるような状況です。

それから、とにかくいろいろ使われるところと連携を取りながら、使っていただけるように少しでも安く提供はしたいと思うのですが、今のところいい値で買っていただいておりますので、助かっておるのは認めています。

それから、アスパラガスにつきましては、A品、B品、C品までと申しましたが、実は、C品は売り先が今のところ個人販売、個人でまとめて売ったり、いろんな形をされているような現状ですが、実は、総菜屋さんとちょっと去年話しまして、今年の夏芽から総菜屋さんに引き取っていただける、買っていただけるようなこと等の話を来月、話を決めまして、買ってくれることは決まっておりますので、C品をそちらに売るような方向で考えております。というか、実行いたします。

次ですが、国も6次化がどうのこうのとかいろんなこと言われていますが、自分たちが6次化をするとですね、基本的にリスクを伴うことが極端です。下手するとやり損ないます。当たり前になり損なうのが一般的です。ですから、我々が自分でするのじゃなくて、業者さんにしてもらおう。そして、それにJA筑紫の名前、アスパラガス部会の名前とかをつけていただけることが可能なら、それが一番いいのじゃないかと思っております。

これは、実は、完全に捨てているやつ、集荷場で切り落とします。例えば、1センチ程度落とします。それから、個人個人が25から27で出しますので、3、4センチから7、8センチぐらい切り落とします。その分を業者さんをお願いをして、パウダーにしております。まだ、試験段階ではございますが、パウダーができ上がっております。このパウダー、アスパラのにおいもいたしますし、いろんな形で養分を、まだ分析がしてありませんで、今からやります、売り込みをかけたい。これも、できたら業者さんに売っていただきたい。ただし、そこに右側に商品がアルミ箔の中に入って、アスパラとしか書いてございませぬが、これにJA筑紫の名前を入れたい。そして産地にJA筑紫というのを入れたい。そういうことで売っていきたいと思っております。それから、農協さんとしても、うちで売りたいという方向もあるので、ぜひともそれは一緒にやっていただければよりさばけますし、農業側としては失礼ですが、この切りくずとして捨てる分が捨てなくて、捨てる場所の問題もございますので、そういったことでは、アスパラガス全部

利用しようという形でもって、今、進んでおるところです。

これは、県南のほうの先進地、県南のほうが収量が上がっておりますので、先進と言っているのが現実かと思いますが、どういったやり方をされているかを、先般見に行きましたら、ただ地の利が違いますので、そういうのを十分考えながら、いいところを盗んで、自分たちのために、そして、個々の農家さんが所得が増えるようにしたいということで、全体で視察、調査に行ったところです。今後もまたこれはぜひともやって行きたいと思っております。

これが、先ほど申しました販売促進の関係でこれは筑紫野店でやったときですが、現在3回、明日ですね、また那珂川店で開催いたします。3回目になります。今後もゆめ畑の直売所でイベントを中心に中でさせていただくということと、将来的にはゆめタウンまで進みたいというふうに思っております。そして、その後もまた、より進んで、とにかくアスパラを広く食べていただきたい。実は、アスパラガスは値段が高いときには、1束が300円近くしたり、安いときは60円、80円でも売っています。で、なるべく高く売りたいのは我々です。買う方は、やっぱり安いところに行くのが現状だと思います。ですから、そういった中で中を持ちながらっていうのもありますが、とにかくアスパラを知ってもらわないことには、1食の食事の中に200円も300円もするのを1束出しておったのじゃあ、恐らく買ってくれない。一部は買ってくれましょうが全体で買ってくれる状況にはない、というのがこういう作物です。ですから、少しは安くもしながら、より量を食べていただくことで、例えば、直売所で売っておっても残るのです。だから、残らないようにしたい。そのためには、若干値段を下げざるを得ないところもあるやもしれませんが、なるべくなら今の値段で売っていきたいといいながら努力をしておるところです。

右側に写真がありますのは、アスパラガスをゆでまして、電子レンジでチンしていただいても結構ですが、それを短冊のように切りまして、例えば、みそしょうゆ、ゴマしょうゆとか、一番右側のは、からしマヨネーズに、このときは入れておりませんが、アスパラの粉を入れたりしながらちょっと提供して食べていただいております。こういったことと、あと肉巻きをしたり、豚バラ肉を巻いたり、通常言われているのはベーコン巻とされていますが、おいしさとしては食べられる方は、ベーコン巻もおいしいけど豚バラ肉がおいしいとか、いろいろ言っていただきまして、お客さん方と話すことも大事なことで、知ってもらうと同時にですね。生産者もつくるだけじゃなくて、そこまで知ってほしいということで、部会員はそうやって1回は販促には出てほしいというようなお話も部会のほうで取

り決め、取り決めというかお願いをしながらやっていっているところでございます。

それでは、終わりになりまして、先ほど私が申しましたように、アスパラガスはもう生産したやつは全部、お金にかえさせていただきたい。というのは、農家はサラリーマンと一緒にです。サラリーマン以上です、企業です。ですから、企業としては、やっぱり儲けがないといけませんので、そのためには、全部売っていききたい、全部ですね。全部、品物として売っていききたいというのが1つありますし、今後、農業は非常に厳しい。米麦では、1町、2町つくっておっても金にならない、赤字でどうしようもありませんし、10町、20町、30町とつくらなくてはならない状況の中で、初期投資はいりますが、アスパラガスを今後、この筑紫野市の中でぐんぐん伸ばしていきたいと思っておりますし、やってみて、1年、2年が非常に苦慮します。もう、お金が足りない、ランニングコストがちょっととかいろいろ出てくるやもしれません。まあ、お金持っていたら別ですが、そういった中で、それを乗り越えれば十分に成り立つ。

単価も、実は、当初福岡県が導入を決めまして、導入を始めた頃の単価が大体1キロ1100円です。現在でも1100円しています。約20年間経っています。途中ちょっと下がり気味で800円台になるかなという時期もありましたが、また元に戻って、ずっと1000円台をキープしているような状況が続いておりますので、今後、下がる場合もあるやもしれませんが、とにかくいい作物といいますか、そして、労働的にも10アールをつくるのに大体1000時間程度です、労働時間が1年間で。ですから、そういう面では非常にやりやすい。

ですから、1戸あたりの面積もうちの部会の中にも多い、少ない、いろいろございますが、できれば少し増やしてほしいとかいう話もいろんな形で進めておりますし、今後、来年度に向けてやっていかれる方につきましては、10アール以上の面積をつくっていくような方向で考えてあるみたいですので、それから、筑紫野市管内には営農集団、特に共同利用組織、ないしは法人がございます、会社組織でやる。米、麦、大豆を中心にやられますが、そういったところでアスパラガスを今度、はっきり申しまして、阿志岐の法人が取り組まれる方向になっていってまいりますので、今後また、大きな形で変わっていくと思っておりますし、ぜひ大量につくって、部会の中に出していただけると販売がやりやすくなると思っておりますので、そういった中で融和を図りながらやっていききたいというふうに思います。

さらに、来年度事業、先ほども、くどいですが、大体3名、1人は面積増反です。あと2人は新規にということでおっしゃっておりますので、ぜひとも頑張ってやっていただけるよ

うに、今いろんな作業を進めておるところです。農協さんが中心になってやっていただいております。そういったところでございます。

今後、部会としましても、とにかく各自の所得が増えること、それを目標にそして、サラリーマン以上に頑張ればやれるんだというのを見せていただきたいし、そして、新たな人たちがどんどん入ってきていただけるように、儲かるよって言えるようになっていきたいと思っておりますので、そういったことで頑張っていきたいと思っています。御清聴ありがとうございます。

実は、先ほどのパウダーの、アスパラガスのパウダー粉、これを使いましたパンをつくっております、まだ試作段階ではございますが、工場さんと提携しました。それをちょっと差し上げたいと思います。

(アスパラガスのパン試食)

- (藤田市長) ありがとうございます。おいしゅうございました。
- (事務局) ありがとうございます。3時のおやつにちょうどいいところでございました。ブロッコリーもアスパラガスもいろいろ御報告いただきまして、先ほどの天原さんの御紹介にもありましたけれども、ブロッコリーもアスパラガスも栄養が高く健康にいいとよく言われる食材として聞いております。ブロッコリーが風邪とか美肌にいいと、アスパラガスは疲労回復と高血圧にいいというものがインターネットに書いてございました。そういう形で人気があるといいましょうか、食卓に並んでも緑がしっかりありますので、彩りもあるしということで、いい野菜ということで食卓に並ぶことが多いのですが、今さっきの話聞いていますと、1年間ほぼ収穫があつたり何があつたりとありましょうけど、ずっと働かないと取れていかないというのがよくわかる活動報告でして、また、お二方の熱意が非常に伝わる報告であったと思います。どうもありがとうございます。

それでは、早速ではございますが、質疑・意見交換のほうに入らせていただきたいと思うのですが、最初は行政側のほうから少しお尋ねさせていただきますけど、よろしゅうございますか。では、お願いします。

- (長野環境経済部長) 失礼いたします。お話を聞かせていただいてありがとうございます。私、農政についてもそうですけど、初めてやりまして、今、お話を聞かせていただいて、ブロッコリーとアスパラガスがこう、いとおしく見えてくるようになりました。聞くとはですね、これやっぱり知らないということで、やっぱり私たちは損しておることがたくさんあるなというふうに考えさせていただきました。ありがとうございます。

いくつかお尋ねしようと思っていましたけど、時間の関係もございますので、ちょっと絞ってお聞かせいただきたいなというふうに思っています。まず1点目は、お話の中にもかなり出てきていましたけども、ブロッコリーとアスパラガスを選ばれた、最初のころにいろいろ野菜がある中で、ブロッコリーだ、いや、アスパラだという形で選ばれた理由といたしましょうか、そうしたものがどうしても教えていただきたいということが1点と、もう1点は、共同選別、共同販売をされていますけども、その形に至った理由、経過あたりをもう少し詳しく教えていただければというふうに思っていますので、その2点を教えていただければありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

○(砥綿ブロッコリー部会長) ブロッコリーですね、個人差はいろいろあると思います。

1つは、露地野菜ですから、まず初期投資、米、麦をつくってあるところだったら、トラクターがありますので、あとは植えつけ機。植えつけ機は、それは自分で全部手作業で、できますけど、それはちょっと厳しいので、植えつけ機は貸し出しの機材を、あと、管理機具自体をお持ちになっておけば、機械的にはそれで十分やることができると思います。

米と違って、米は大体できるのですが、作付は畝を立てるとか、そういう作業はあります。それは、もうそういう機械を簡単に使えばできます。次に、やっぱり今現在、ブロッコリーにしてもアスパラガスにしても非常な人気がある、これがまず第一です。それで何と言いますか、1年間で米・麦をやっていたら、物足りないのですよ。もう、ほとんど毎日作業がないんです。植えたらいつとき何もない。ブロッコリーとかにつきましては毎日作業です、何らかの作業が。で、農業をしていたら、これがいいんです。毎日ね、絶えずある。こういう作物は、私は作りがいがあると思うのです。もう何にもやらなくて、あとは収穫までないっていうのは、かえって嫌です。毎日、毎日、作業ができる。雨が降ってもできる、雨が降っても収穫できる、そういうのをやりたい。そうですね、それが一番大きなことでしょう。

2点目、共同出荷、共選ということなのですが、昔のことをお話したら、朝、収穫して持ち帰ったら、家で詰めて、それも立て詰めと言って、今、寝かせて詰めていますけど、立てるんですよ、全部立てる。ブロッコリーを本当に見えるように。これは、なぜかという、全部真ん中にして寝かせていたんです。で、すぐわかるように立て詰めで、これを農家で全部詰めるのです。で、詰めて、後で持ってきて、それから部会員で見て、終わったらトラックで、トラックの大きなのをお持ちのところが積んで市場まで持って行く。もう一日がかりです。それでやっていたので、もうとにかく大変だったんです。もう疲

れるといたしますか、特に収量が多くなってきたら、本当に身が持たないというか、収穫にしても朝早くからやり始めても夕方までかかるのです。で、そういうこともあって、とにかく大変だからということで、収穫と持っていくってあるんです。ここに持ち込めば、一日冷蔵庫の中に入れていて、次の日には立てて、立てたものをシルバーさんとかが作業されて、それも横詰めです。素人の方でもできるように横詰め、それは、基本L玉ですけど、これが20本です。入れて、あとはもう、そこに置いておけば、トラックで持っていきますので、とにかく持って来るまでです。ということは、その後の作業も、いろいろな手入れ作業とか、それとか収量、要するに作付面積を上げていく、こういうことが可能になってくる。

ただ、皮肉なことに、そういうことをやり始めたら、今度は大きなところがどんどん出でしまって、今のような12町ぐらいの規模まで落ちてしまったのですが、これは、今から収量、作付を希望される方にとっては有利ですから、ぜひたくさん、もうさっきも申しましたとおり、最低でも1町、それ以上できる方はつくっていただいて、17町と言わず、20町ぐらいまで、私が部会におる間にやりたいという気持ちはあります。

○（神崎アスパラガス副会長） 今、ブロッコリーで言われていましたように、人気があるというのが現状です。ただ、アスパラの場合は、先ほど申しましたように、単価が1年間を平均しますと、先ほど言いました1100円ぐらい、安定しておるのは1つあります。そして、労働時間が1000時間、これは施設物の中では非常に少ない。トマトと大体、同じ時間、で、キュウリとかナスとかイチゴ、こういうやつは大体2000時間を超えています。10アールですから、それらの半分。油をたかなくていい。そして、実際のランニングコストって、ビニール類は大体、破れる直前まで使う。天井ビニール、ですから、キュウリとかイチゴ、今、最近は厚いやつが出ましたので、少し長く使われていますが、それでも2、3年。ですから、そういった部分のランニングコストも非常に安く済む。そういったことがありますし、所得率がキュウリとかアスパラみたいな、ナスとかイチゴ、総額は向こうが多いのは現実ですが、所得率が違います。こちらは多いです。ですから、そういった面では、率が非常にいいし、やりやすい。そして、簡単にできるというか、ただ問題があります。初期投資は、キュウリとかナスと一緒に。二重カーテンといたしまして、1層カーテンまでしなくちゃなりませんし、していないところもおられます。その分、遅く出るだけですから、それは各戸すればいいということで、あと、初年度、1年目植えてすぐの年、ないしは2年、3年近く収量がなかなかこう急激には伸びて

いかない。地の利の問題だと思います。県南では、2トンからすぐ取れているのに、こちらでは1トン半とか、1トン200とか、そういったちょっと少ないようなそういったところがありますが、とにかく進めるには労力が本当に要らないし楽しんで、ただ収穫が毎日2回しないといけないとか、初年度は大変なことで申し上げながら、ただ一番やっぱり危惧されるのが、ハウスを建てないといけないというのは問題。これも県単の補助事業5割補助に乗っかるような段取りでもって、3棟以上ですね、それでお勧めはしておりますので、それでどうにか少しずつ増えているのが現状、おかげで県の補助事業、今回は3回目になりますので、筑紫野市内で行わせていただきます。

共選・共販につきましては、実は、私たち7年前に加入した人たちが入るまでは共同選別がなかった。共同販売は、やっておりました。ですが、共同選別をやれば、非常に農家側は楽になる。持ち込めば、それで終わりになりますので、あとはお金も出さなくてはなりません、向こうで整理してぴしゃっとした形にして、製品にしてくれるということで、実は4人で始めたときに、4人でやろうって話を始めた。そうしましたら、農協の当時の会長さんが農協でしますということで、言い切ってください、ちゃんとそれを実行していただきまして、現在、そこの向こう側にありますが、集荷場で間借りしたような形でしておりますが、おかげでできましたので、そういったことで、内容はブロッコリーさんと一緒に、とにかくそこに出せば終わりですし、あとはちゃんとしてくれる。そして同時に経費はかかっても少しでも野菜が売れるようになったので、ブロッコリーさんとちょっと違うところは、うちの場合は冷氷機、暖房機はあんまり使いませんが、冷房機は入れた中で作業をするというようなこともやっております。

将来的には、金額が上がれば、より高度な機械を入れて、人を極端には減らせませんが、楽しんでやっていこうかなというふうに思うところです。

○（長野環境経済部長） はい、ありがとうございました。

○（事務局） それでは、今、部会長、副部会長さんにたくさんいっぱい熱い思いをいただいたのですけれども、それでは申しわけありませんが、新規部会員として入られたときのお気持ちというのが多分あれようかと思うのですけれども、ブロッコリーの皆さんの先ほど自己紹介の中では、佐伯さんとか田中さんは、まだ入られて時間が短いというふうに伺いましたし、アスパラガスのほうが柏木さんも今村さんも、たしか短いのですよね。

諸先輩がおられる前で、ちょっとあれかもしれませんけれども、入られたきっかけとか、今こういうことをやっているんだと教えていただけたらなということで、若いというか、

農業に携わって浅い人たちがこういうふうなことをやっているんだということ、ぜひお聞かせいただきたいなというのがありますので、最初にアスパラガスから行ってもいいですか。今村さんからお願いします。

○（アスパラガス部会員） 新規に就農をしましたが、私の場合は、ほぼゼロからのスタートだったので、販売ルートの確保が非常に難しく、ここに時間をとられてしまうので、部会に入ることにより、その問題を解消でき、技術の面でも、じかのお話を伺える形、バックアップしてくれているので、そこは非常にありがたいです。

○（事務局） はい、ありがとうございます。それでは、柏木さんをお願いします。

○（アスパラガス部会員） 僕のほうは、新規就農、初め何をするかというのが、僕は本当はトマトをつくる予定だったのですが、紹介してもらったところがアスパラガスがあって、新規就農で、僕は機械とか何も持ってなかったんで、とりあえずアスパラガスが植わっているのを始めたのですが、筑紫野市で、また借りてやるときに、やっぱりアスパラでよかったなって、あんまり機械がいないんです。

初めだけ畝立てて、で、あと植えつけたらずっと長く10年も15年も取れるということで、新規就農者としてはありがたい作物ではあったなど。初め、ビニール、先ほども話にもあったように、ビニールを張る初期投資だけかかるので、その分だけはちょっとかかりますけども、お金もなく、新規就農する人にとっては、結構いい作物ではあるんじゃないかなとは思っています。

ただ、新規就農者は、全く農業じゃないところから来ているので、その技術面とかが物すごく問題で、全然経験がないものですから、農家の息子さんで後を継ぐような方と比べて感覚的にもうやっぱり、どの時期に何をやらなきゃいけないとかいうところをわからないところもあって、農作業自体も余り段取りよくできなかつたり、そういった中でやっぱり部会に入って、育て方を先輩方から教えてもらうっていうのは、僕はすごくためになったので、部会に入ってよかったなとは思っています。先ほども言われていたように自分で全部出荷までやると、やっぱり1人でやるのは限界があるので、部会だとやっぱり出荷ができる。その分、育てるのに時間が割けるから、だからやっぱり部会に入っているというのは新規就農者、新規就農で違うところから来るところで選択するには1番いいのではないかなとは、僕は思っていますけども。そうした中で僕は部会に入ったということです、はい。

○（事務局） ありがとうございます。部会に入られて、その販路の話であったり、機械が

買えなかったりということで、あとは話が聞けるというようなことが、よかったなというようにお話が出ました。

これについては、ブロッコリーのほうも伺ってもよろしいでしょうか、また、あちらとは違うお話が、佐伯さん、お願いします。

○（ブロッコリー部会員） 私のほうは、大体、兼業で稲作だけしていました。普通に兼業農家で進めていたのですが、そのうちにちょっと麦もつくってみようかなと思って、機械も好きだったから、そういったことで麦をつくり始めて、また、それから裏作もちょっとしたいなと思って大豆とかもつくり始めて、そうこうしているうちに定年退職になって、そのころ出ていたのがブロッコリーをつくってみませんか、おもしろいですよって。

私、野菜あんまりつくったことがなかったので、近所の方がもうブロッコリーつくってあったのです。いいよということで、ここに2人ほど先輩さんおられますけど、何かこの部会がまた、おもしろくてですね。どちらかというところちが先でした。ブロッコリーづくりよりも人から誘われて、人の中に入って行って、それからブロッコリーというのは、こういうものかなということで、それまではブロッコリーというのがどういうもので、どういうふうにするのが一番品質にいいかということもいろいろ勉強しながら、いつも意見交換しながら、人のものを見て、いろいろ教わって、そしてこう、今に至っているということで、ブロッコリー部会もありまして、あと稲作の会とか麦作会とか大豆会とかいろいろあって、そういったことに参加させていただきながら、いろんな方と知り合いになって、私は古賀なので、山口地区しか知らなかったのですけれども、筑紫野市中、それから那珂川町、そういった方たちとも面識ができて、野菜を通じて、米、麦、大豆をつくって、そういったことがよかったなと思ひまして、そういったことを含めながら、今度は次世代の方、私自身もいろいろ教えられることができればなということが、今一番、あと何歳まで生きるかわかりませんが、そういったことを広めて、地域貢献したいなというふうに考えています。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、時間の都合がございますので、こちら辺で、今、皆さんからの意見をいっぱいいただいて、たくさん聞かせていただいて、ありがとうございます。それでは、次の施策概要の説明に入らせていただきます。よろしくをお願いします。

○（事務局） お時間をいただきまして、市の平成29年度予算や施策の概要について、説明させていただきます。画面の方をご覧ください。

こちらは、平成29年度一般会計の歳出予算の内訳です。歳出予算の中で一番大きな割合を占めているのが民生費です。子どもや高齢者、障害者などの福祉に使われるものです。予算の42.5%を占め、その額は、約132億6300万円です。

次は、総務費、行政の運営や戸籍、税金の徴収などに使われます。予算額は約42億6100万円、全体の13.6%を占めています。

次は、土木費、道路や公園などの補修や建設に使われます。予算額は約29億8500万円、全体の9.6%を占めています。

次は、衛生費、健康診断や予防接種、ごみ処理などに使われます。予算額は約29億4200万円、全体の9.4%を占めています。

次は、公債費、市の借金を返済するもので、予算額は約28億5300万円、全体の9.1%を占めています。

次は、教育費、教育や文化・スポーツなどに使われます。予算額は約25億8300万円、全体の8.3%を占めています。

最後に、その他は、議会や農業・商工業、消防などに使われる予算で約23億2700万円、全体の7.5%です。

これらの総額312億1400万円によって、10万3千人余の市民の皆さん方の生活を守っていくこととなります。

続いて、筑紫野市がこれから進もうとする基本的な考えについてお話させていただきます。昨年4月、第五次筑紫野市総合計画をスタートしました。藤田市長就任以来の公約である行財政改革、産業・雇用をつくる、生活をまもる、共助社会づくり、未来をつくる、この5つを政策の柱とし、さまざまな事業に取り組んでおります。

さらに、今後、特に重要になる取り組みを、重点施策として5つ設定し、積極的な推進を図ることとしております。

重点施策の1つ、市庁舎建設ですが、先日5月15日に、市内石崎の建設予定地において、筑紫野市庁舎建設事業起工式を行わせていただきました。こちらは、県道側から見た鳥瞰イメージ図です。また、こちらは、建物の配置と各階の配置です。これら基本設計の概要については、広報4月15日号とホームページ上でお知らせしております。新たな市庁舎は、市民サービスの効率的な提供はもちろん、大規模災害時における避難、復旧・復興の拠点、さらには地域コミュニティの連携拠点として、コンパクトで市民の皆様へ、この先、末永く愛され、親しまれるシンボリックな庁舎を目指し、平成30年11月の完成に

向け、工事を行ってまいります。

続いて、産業・雇用をつくるの政策の中では、農林業の振興などの事業を進めておりますが、その中から、皆さん方の活動に関連する事業などをいくつか御紹介いたします。

最初に、先ほども出ておりました野菜振興対策補助事業、予算額が108万円です。今後とも安全で安心な農産物供給に向けた取り組みを、ともに進めてまいりたいと考えておりますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

次に、青年就農給付金事業、予算額が1500万円です。就農意欲の喚起と就農後の定着を図ることを目的に新規青年就農者に対する支援を行うため給付金を交付するものです。

次に、産地づくり推進補助事業（水田調整対策補助事業）、こちらも先ほど触れていただいておりますが、予算額が1800万円です。米の生産調整を行い、転作したものに對し、補助を行うものです。

次に、農村環境整備事業、予算額が2491万1千円です。農業用施設の整備および改修を行うもので、計画的な実施を行っております。

次に、多面的機能支払交付金事業、予算額が1753万5千円です。農地が有する国土保全・自然環境保全などの多面的機能が適切に発揮されるよう、農村環境向上の効果が高い共同活動に取り組む組織に対して支援を行うものです。

次に、筑紫野市農業女性グループ協議会助成事業、予算額が18万円です。市内5グループで組織される協議会の活動を支援するための補助金です。農業女性と消費者のつどいでは、新鮮な野菜を使った郷土料理などを調理・食事しながら交流を行いました。

最後に、いきいき商工農フェスタ補助事業、予算額が190万円です。いきいき商工農フェスタ実行委員会に対する補助金です。幅広い事業所が参加し、商工農業者と市民、消費者のふれあいの場として開催されるイベントとなっております。

以上、簡単な説明ではございましたが、このような事業を通して、皆さん方と行政がお互いに協力しあいながら、筑紫野市の農業の発展に向けて推進してまいりたいと考えております。御清聴ありがとうございました。

○（事務局） 以上が、施策概要の説明でした。それでは、最後の項目になります藤田市長からのお礼の挨拶となります。

○（藤田市長） 皆さん、本当に、ブロッコリーとアスパラガスの部会の皆さん方から非常に懇切丁寧にそれぞれの努力、また成果、いろいろと参考になるお話をたくさんたくさん聞かせていただいて、感謝申し上げます。

砥綿さんも、それから、神崎さんもそれぞれに代表的にお話をしていただいたわけですが、神崎さんのお話の中にですね、農事組合法人、筑紫野市には3法人あるのですが、そこにこういうふうな作付を進めていって拡大していきたい。そして、このブロッコリーもアスパラガスもですね、今、後継者問題というものがありますけれども、やっぱりやればやるほど、労力を少なくして、成果、製品をつくり上げていく楽しみとそれに伴う収益を求めることができるというようなお話は、非常に聞きながら参考になりました。御苦労もあるのだらうと思いますが、そういう前向きで農業政策を進めていく努力は、後継者を作り、また、農業の将来に夢を与えてもらえるものだらうとこういうふう感じたところがございます。

また、佐伯さんのお話の中に、ブロッコリーづくりよりも人づくりといいますか、人とのそういうふうな融和を、絆をつくるのが、非常に自分のやっぱり、当初そこまでは考えなかったのに、そういうふうなその輪、人との輪を得ることができたことが非常に良かったというようなお話が参考になりました。何かにわからないことに打ち込んでみたら、そこにはまた別の世界があったというような印象が非常に好感が持てた言葉で、ありがたく感じました。

また、若い人の萩原の青年、やっぱりほら、わかんないけど何かやってみようと、そうしたらきっと何か得るもの、つかむものがあるんだというような期待感をひしひしと感じた会議でしたね。

結城さんも最初はきちっと説明をしていただきましたけど、その初期のスタートからすると、相当な御苦労もあったことだと思いますが、言葉にはあまり出されませんでしたけど、その足跡がこのような形で、それぞれに成果を出しているというのは、1つの喜びを感じてあるのではなかろうかとこのようにも思わせていただきました。

いずれにしても長時間、皆さん方のいろんな非常に貴重なお話を聞かせていただき、特に、このお花とアスパラの粉末のパンが大変おいしかったと、これは忘れない思い出でございます。また、機会がありましたらね、これは1回目ですけども、また砥綿さん、2回目もよろしくまたお願いしておきたい、神崎さんもよろしくお願いしておきたいと思います。皆さん、どうも本当に長時間ありがとうございました。御礼申し上げます。

○（事務局） これで、全ての項目を終わります。どうもありがとうございました。